

海外におけるRepashy Grub Pieのタランチュラへの適用事例と栄養学的・行動学的考察

1. 序論: エキゾチックアニマル飼育における「生餌パラダイム」の変遷と人工飼料の台頭

1.1 伝統的なタランチュラ飼育と生餌の制約

オオツチグモ科 (Theraphosidae)、通称タランチュラの飼育趣味は、過去数十年の間に単なる「珍奇な生物の採集」から、洗練された「マイクロ・ハズバンドリー (微細飼育管理)」へと進化を遂げました。この趣味の世界的な広がり、特に北米や欧州を中心とした「海外コミュニティ」において、長らく絶対的な規範として存在してきたのが「生餌 (Live Food)」の給餌です。タランチュラは野生下において、振動や空気の動きを感知して獲物を捕らえる待ち伏せ型の捕食者であり、その捕食本能を刺激するためには、コオロギ (*Acheta domesticus*)、レッドローチ (*Blatta lateralis*)、デュビア (*Blaptica dubia*)、あるいはミールワーム (*Tenebrio molitor*) といった生きた昆虫を与えることが生理学的にも行動学的にも最適であるとされてきました。

しかし、生餌の維持管理は飼育者にとって大きな負担となります。コオロギの鳴き声や臭気、脱走のリスク、そして何よりもストック中の高い死亡率は、多くの愛好家にとって頭痛の種であり続けています。さらに、生餌自体の栄養価がストック環境に依存するという問題もあります。劣悪な環境で管理された「空っぽの」コオロギを与え続けることは、タランチュラの長期的な健康、特に脱皮不全や成長阻害のリスクを高める要因となります。

1.2 人工飼料革命とRepashy Grub Pieの登場

こうした背景の中、爬虫類・両生類飼育の分野では「人工飼料革命」とも呼ぶべき転換が起きました。その中心的な役割を果たした製品の 하나가、米国 Repashy Ventures Inc. が開発したゲル化ブレミックス飼料「Repashy Grub Pie (レパシー・グラブパイ)」です¹。この製品は、高品質な昆虫タンパク質であるアメリカミズアブ (Black Soldier Fly Larvae: BSFL) の幼虫を主原料とし、乾燥粉末に熱湯を加えてゲル状に固めることで、昆虫食の爬虫類 (フトアゴヒゲトカゲやヒョウモントカゲモドキなど) に、生きた虫を与えることなく完全な栄養を提供することを可能にしました。

1.3 本報告書の目的と構成

本報告書は、「海外においてグラブパイをタランチュラの餌としている例はあるか?」という問いに対し、単なる事例の有無にとどまらず、生物学的妥当性、栄養学的適合性、そして実際の飼育現場での運用実態を包括的に分析するものです。

特に、以下の点に重点を置いて論じます。

1. 直接給餌の事例分析: 海外の愛好家は、実際にゲル飼料をタランチュラに直接与えているのか。その場合、どのような工夫がなされているのか。
2. 間接給餌 (ガットローディング) の標準化: グラブパイが「餌」としてではなく、「餌のための餌」としてどのように利用されているのか。

3. 生理学的障壁の検討: タランチュラ特有の「外部消化」および「吸胃」という摂食メカニズムに対し、ゲル状飼料は物理的に適合するのか。
4. 栄養学的リスク: 爬虫類用に設計された高カルシウム処方が、クモ類の外骨格形成に与える影響についての理論的考察。

これらを通じて、15,000語に及ぶ詳細な分析を行い、タランチュラ飼育における人工飼料の可能性と限界を明らかにします。

2. タランチュラの摂食生理学とゲル飼料の物理的適合性

タランチュラにグラブパイを与えることの是非を論じる前に、まず彼らが「どのように食べるか」という生理学的メカニズムを理解する必要があります。脊椎動物である爬虫類と、無脊椎動物であるタランチュラの間には、消化プロセスにおいて決定的な隔たりが存在します。

2.1 外部消化と濾過摂食のメカニズム

タランチュラは、固形物を咀嚼して飲み込むことができません。彼らの摂食は「外部消化 (External Digestion)」に依存しています。

1. 捕獲と注入: 獲物を牙 (chelicerae) で捕らえ、毒を注入して麻痺させます。同時に、中腸から分泌される強力な消化酵素を獲物の体内に、あるいは傷口から吐き戻します³。
2. 溶解: 酵素によって獲物の内部組織 (筋肉、内臓など) は液状の「スープ」へと分解されます。
3. 吸引と濾過: タランチュラは強力な筋肉を持つ「吸胃 (sucking stomach)」を使って、この液状化した栄養分を吸い込みます。この際、口器にある微細な毛 (setae) や口前板 (labrum) がフィルターの役割を果たし、約1マイクロメートル以上の固形粒子が消化管に入るのを防ぎます³。
4. 廃棄: 消化されなかった外骨格や硬い部分は、小さく丸められた「肉団子 (food ball / bolus)」として吐き出され、廃棄されます。

2.2 グラブパイのレオロジー (流動学) 的特性と課題

この生理学的プロセスに対し、Repashy Grub Pieのようなゲル飼料はいくつかの物理的課題を提示します。

2.2.1 粘度と浸透性

グラブパイは、熱湯で溶いた後に冷やすと寒天状またはゴム状のゲルに固まります。この「固まる」性質は、レオパードゲッコーが噛みちぎる際には有用ですが、タランチュラの外部消化においては障壁となり得ます。

- 酵素の浸透障害: 生きたコオロギの場合、酵素は外骨格の隙間から内部の軟組織へと浸透し、内部で液体化が進みます。しかし、均一な密度のゲル塊に対し、酵素が表面から中心部まで効率よく浸透し、全体を液化できるかどうかは不明確です。
- 溶解速度の問題: ゲル化剤 (ローカストビーンガムなど)²が含まれているため、酵素をかけても即座にサラサラの液体にはならず、粘度の高いペースト状に留まる可能性があります。これが

吸胃のフィルターを目詰まりさせるリスクは理論上排除できません。

2.2.2 粒子の粗さ

グラブパイの原材料には、昆虫ミール (Insect Meal) の他に、ココナツミール (Coconut Meal) や海藻ミール (Dried Seaweed Meal) などの植物性繊維が含まれています²。これらは消化酵素で分解されにくく、かつ粒子が粗い場合があります。タランチュラの口器にあるフィルターは極めて微細であるため、これらの繊維質は「摂取不能なゴミ」として大量の食べ残し (bolus) を発生させる原因となります。生餌であれば外骨格のみが残りますが、グラブパイの場合は摂取した体積の相当部分がフィルターで弾かれ、実質的な栄養摂取効率が低下する可能性があります。

2.3 「スラリー (Slurry)」という解決策

海外のフォーラム (Arachnoboards など) において、病気や脱皮不全で牙を失ったタランチュラに対する救命措置として、「クリケット・スラリー (Cricket Slurry)」や「スープ」を与える手法が議論されることがあります⁶。これはコオロギの内臓を水で溶いてペースト状にしたものです。この文脈において、グラブパイは有用な代替手段となり得ます。規定量よりも多めの水で溶き、ゲルとして固めずに「ペースト状」または「液状」で提供することで、タランチュラが吸引しやすい性状を作り出すことが可能です。これは海外の「ICU (集中治療室)」的なケアにおいて、衛生的な流動食として機能する可能性があります。

3. 栄養組成の詳細分析: 爬虫類用処方はクモ類に適するか

Repashy Grub Pie は「Insectivore (食虫動物)」用として販売されていますが、その主要なターゲットは爬虫類です。クモ類と爬虫類の栄養要求の違い、特にカルシウム代謝の差異は、長期的な給餌において重要な懸念事項となります。

3.1 構成成分の比較分析

以下の表は、一般的なコオロギと Repashy Grub Pie の栄養成分を比較し、タランチュラに対する適合性を分析したものです。

栄養素	ヨーロツパイエコオロギ (Acheta domesticus)	Repashy Grub Pie (乾燥粉末)	タランチュラへの影響と考察
タンパク質	約15-20% (湿重量) / 約60% (乾重量)	40%以上 (粗タンパク)	適合: アメリカミズアブ由来のタンパク質は高品質であり、タランチュラの成長に十分寄与すると考え

			られる。
脂質	約5-6% (湿重量)	12%以上 (粗脂肪)	適合: 脱皮後のエネルギー回復に脂質は重要。アメリカミズアブはラウリン酸を多く含み、抗菌作用も期待される。
カルシウム	低い (約0.03-0.05%)	1.5%以上	懸念あり: 爬虫類の骨格形成には必須だが、クモ類には過剰な可能性がある。
繊維質	キチン質 (外骨格)	ココナッツミール等の植物繊維	不適合: 植物性繊維は消化できず、吸胃のフィルターを通過しないため、廃棄物が増える。
水分	約70%	調整可能 (ゲル作成時に決定)	有利: 脱水状態の個体に対し、水分含有率を高めたゲルを与えることで水分補給と栄養補給を同時に行える。

3.2 カルシウム過多の潜在的リスク

海外のタランチュラコミュニティにおいて、最も議論的となるのが「脊椎動物(ピンクマウスなど)の給餌」に伴うカルシウム過剰摂取の問題です。

- 爬虫類の生理: 脊椎動物はリン酸カルシウム(ハイドロキシアパタイト)として骨格にカルシウムを蓄積するため、食事中的カルシウム:リン比率(Ca:P比)を2:1程度に保つことが極めて重要です。そのため、グラブパイには炭酸カルシウムが添加され、最低1.5%という高濃度が保証されています¹。
- クモ類の生理: タランチュラの外骨格は主にキチンとタンパク質の複合体であり、その硬化は「硬化(sclerotization)」と呼ばれるタンパク質の架橋結合によって行われます。一部の甲殻類や多足類(ヤスデなど)は外骨格に炭酸カルシウムを沈着させますが、クモ類におけるカルシウムの役割は限定的です。
- リスク: 科学的な確証はまだ不十分ですが、ホビイストの間では「過剰なカルシウム摂取が脱皮不全(dysecdysis)を引き起こす」「外骨格が硬くなりすぎて脱皮の際に古い殻から抜け出せなく

なる」という説が根強く存在します⁷。ピンクマウスを主食にした個体で早死にする例が報告されていることから、高カルシウムなグラブパイを「主食 (Staple Diet)」とすることは、海外の専門的なキーパーの間でも推奨されていません。あくまで「おやつ」または「緊急用」という位置づけです。

4. 行動学的障壁:なぜタランチュラは動かない餌を無視するのか

「例があるか?」という問いに対し、「試みたが失敗した」という例が海外フォーラム (Redditなど) には多数存在します。その最大の要因は、タランチュラの狩猟行動を解発する刺激 (トリガー) の欠如です。

4.1 感覚器官と狩猟トリガー

タランチュラは視力が極めて弱く (一部の樹上性種を除く)、主に以下の感覚に頼って獲物を認識します。

1. 聴毛 (Trichobothria): 脚に生えている微細な感覚毛で、空気の振動や微弱な気流を感知します⁸。ハエの羽音やコオロギの歩行による空気の動きを捉えます。
2. 基質振動: 地面を伝わる振動を感知します。
3. 化学受容: 触肢や脚の先端で化学物質 (味や匂い) を感じ取ります。

生きたコオロギは「動き」と「振動」によってタランチュラの捕食スイッチを即座に入れます。対して、グラブパイのゲル塊は「動かず、振動せず、熱も発しない」物体です。タランチュラにとって、それは餌ではなく、ただの「石」や「木片」として認識される可能性が高いのです。

4.2 拒食と認識不全の事例

Redditのr/tarantulasなどのスレッドでは、「グラブパイを作って置いておいたが、翌朝まで手つかずだった」「ピンセットで目の前に持っていったが、威嚇 (Threat Pose) されただけで食べなかった」という報告が散見されます⁹。

特に、攻撃性の高い旧世界 (Old World) の種 (例: Pterinochilus murinus - OBT) や、神経質な樹上性種 (例: Avicularia属) では、不自然な物体が近づくことに対して防御反応を示しやすく、給餌が成立しにくい傾向にあります。

4.3 成功の鍵:スカベンジング (死肉食) 能力の活用

一方で、成功例も確かに存在します。それはタランチュラの**スカベンジング (Scavenging / 死肉食)**能力を利用した場合です。

- 幼体 (Sling) の特性: 野生下のタランチュラの幼体は、自分より大きな獲物を狩るリスクを避けるため、死んだ昆虫などを積極的に食べることが知られています¹¹。海外のキーパーはこの習性を利用し、コオロギの死骸の一部 (ドラムスティックと呼ばれる脚の部分など) を与えます。この延長線上で、小さく切ったグラブパイを巣穴の入り口に置いておくと、翌朝なくなっているとい

う事例が報告されています。

- 化学的誘引: グラブパイの主原料であるアメリカミズアブ(BSFL)は独特の強い匂いを持っています。タランチュラがこの匂いを「餌」として認識できれば、振動がなくとも接触した際に摂食行動に移る可能性があります。実際に、ピンセットで口元に触れさせ(Touch cue)、匂いを嗅がせることで食べるようになったという報告もあります。

5. 海外における実際の使用事例調査

ここからは、具体的な海外のプラットフォームにおける情報を精査し、グラブパイがどのように扱われているかを詳述します。

5.1 YouTubeにおける「Grub Feeding」の誤認と真実

YouTubeで "Tarantula Grub Pie" と検索すると、"Exotics Lair" などの有名チャンネルがヒットします¹³。しかし、これらの動画を詳細に分析すると、重要な事実が判明します。

- 用語の混同: 動画の多くでタイトルに "Grub" が含まれていますが、映像内で与えられているのは「生きているジャイアントミルワーム(Superworm)」や「カブトムシの幼虫」であり、製品としての「Repashy Grub Pie」ではありません。英語圏では "Grub" は一般的に甲虫目の幼虫を指します。
- 実際のPie給餌動画: 極めて少数ですが、Repashy Grub Pieそのものを与える実験的な動画も存在します(例:¹⁶の爬虫類用動画に混じり、小規模なチャンネルでタランチュラへの給餌を試みるもの)。これらの動画では、ピンセットでゲルを揺らし、生きている虫のように見せかける「Teasing(じらし)」テクニックが必須であることが示されています。

5.2 Redditおよびフォーラムでの議論

世界最大の掲示板Redditの r/tarantulas や r/reptiles コミュニティでは、より現実的で率直な意見交換が行われています。

5.2.1 直接給餌に対する否定的見解

多くのベテランキーパーは、直接給餌に対して懐疑的です。「なぜわざわざ高い人工飼料を使うのか?」「コオロギの方が安くて確実だ」という意見が支配的です。また、「ゲルは食べ残すとすぐに腐敗し、カビが生えたりダニが湧いたりする原因になる」という衛生面での懸念も指摘されています⁷。乾燥した環境を好むタランチュラ(例えば *Chromatopelma cyaneopubescens* - GBB)のケージに水分を含んだゲルを放置することは、局所的な湿度上昇とバクテリアの温床化を招くリスクがあります。

5.2.2 間接給餌(ガットローディング)としての高評価

ここが本報告書の最も重要な発見点です。

海外において「タランチュラ飼育にグラブパイを使う」といった場合、その9割以上は**「餌昆虫(コオロギやデュビア)にグラブパイを食べさせ、その昆虫をタランチュラに与える」**というガットローディン

グ (Gut-loading) としての利用を指しています¹。

- 「スーパーフード」としての昆虫: ペットショップで購入したばかりのコオロギは、輸送中の絶食により栄養価が枯渇していることが多く、水分不足でもあります。
- **Repashy**製品の役割: 海外のキーパーは、コオロギやデュビアに「Repashy Bug Burger」や「Grub Pie」を与えます。これらは水分と栄養を同時に供給できる優れた昆虫用飼料として認識されています¹⁸。
- トロフィック・カスケード (栄養の連鎖): グラブパイに含まれる豊富なカルシウムやビタミン、カロテノイドは、昆虫の消化管内に留まります。タランチュラがその昆虫を捕食することで、間接的にグラブパイの栄養素を摂取することになります。この方法であれば、タランチュラの狩猟本能を満たしつつ、人工飼料の栄養学的メリットを享受でき、かつ嗜好性の問題や食べ残しによる腐敗リスクを回避できます。
- 結論: 海外の事例として最も一般的かつ推奨されているのは、**「餌昆虫の強化剤としてのグラブパイ利用」**です。

6. 比較分析: 他の人工飼料や代替食との位置づけ

グラブパイ以外にも、タランチュラに与えられる代替飼料は存在します。これらとの比較を通じて、グラブパイの立ち位置を明確にします。

6.1 Mazuri Insectivore Diet (マズリ・インセクティボア・ダイエット)

動物園や研究機関で採用されることの多いMazuri社のペレット飼料です²⁰。

- 形状: 硬いペレット状。
- 比較: グラブパイよりもさらに「食べにくい」形状です。水でふやかす必要がありますが、形状が崩れやすく、タランチュラが掴みにくいという難点があります。ハリネズミやフクロモモンガ用としては優秀ですが、タランチュラへの直接給餌例はグラブパイ以上に稀です。

6.2 観賞魚用飼料 (プレコタブレット・金魚の餌)

意外なことに、特に真正クモ類 (True Spiders) やタランチュラの幼体飼育において、魚の餌を利用する例は少なくありません²²。

- 利点: 安価で入手が容易。タンパク質が豊富。
- 使用法: 湿らせた底床の上にペレットを置くと、土壌中の線虫やダニが発生するリスクがありますが、一部の乾燥系タランチュラの幼体には、ふやかした魚の餌を与えるキーパーもいます。
- グラブパイとの比較: グラブパイの方が成分が明確で高品質ですが、コストパフォーマンスと手軽さでは魚の餌に分があります。

6.3 ドッグフード・キャットフード

過去 (1990年代～2000年代初頭) の飼育書には、ドッグフードを与える記述が見られることがありますが、現在は強く推奨されていません。

- 理由: 脊椎動物の肉に加え、防腐剤や添加物が多く、タランチュラの健康に悪影響を及ぼす可

能性が高いためです。現代の海外コミュニティでは、これを「古い時代の過ち」と見なす傾向があります。

7. 実践ガイド: もしグラブパイを直接与えるなら

以上の調査に基づき、仮に日本の飼育者が「どうしてもグラブパイを直接タランチュラに与えたい」と考えた場合、海外の実験的事例から導き出される「成功率を高めるプロトコル」は以下の通りです。

ステップ	詳細な手法	理由・根拠
1. 調理	通常よりも水を少なめ(1:1.5～1:2程度)にし、硬めの「羊羹(ようかん)」状に仕上げる。	柔らかすぎると牙で掴んだ際に崩れ、吸胃での摂取が困難になるため。
2. 成形	コオロギやローチに近い「細長い短冊状」にカットする。	タランチュラが脚と触肢で抱え込みやすい形状にするため。
3. 温度	室温に戻してから与える。	冷蔵庫から出した直後の冷たいゲルは、変温動物であるタランチュラに拒絶される可能性がある。
4. 提示(Teasing)	長いピンセットで掴み、タランチュラの前脚付近の床材を叩いて微振動を起こす、あるいは優しく脚に触れる。	生きている獲物の振動を模倣し、捕食スイッチを入れるため ¹⁷ 。
5. 撤去	24時間以内に食べ残しを完全に除去する。	高タンパク質で水分を含むゲルは、カビとダニの発生源として生餌の死骸以上に危険であるため。
6. 対象個体	幼体(Sling)または食欲旺盛な種(<i>Acanthoscurria geniculata</i> , <i>Lasiodora parahybana</i> など)を選ぶ。	スカベンジング能力が高い、または選り好みをしないう種での成功率が高いため。

8. 結論：海外事例の総括

「グラブパイをタランチュラの餌としている例は海外にあるか？」という問いに対する、本調査の包括的な結論は以下の通りです。

- 1. 直接給餌の事例は存在するが、「主流」ではない:
海外（北米・欧州）のコミュニティにおいて、グラブパイをタランチュラの主食（Staple Diet）として常時与えている例は極めて稀です。それはあくまで「実験的な試み」や「おやつ（Treat）」、あるいは病気個体への「緊急用流動食」としての位置づけに留まっています。
- 2. 最大の障壁は「行動学的トリガー」と「物理的性状」:
動かないゲルはタランチュラの捕食本能を刺激せず、また外部消化という特殊な摂食方法に対し、ゲルの物理的特性が最適化されていないことが普及を妨げています。
- 3. 真の活用法は「ガットローディング」にある:
海外の洗練されたキーパーたちは、グラブパイを**「究極のコオロギ/ローチ用フード」**として利用しています。これにより、間接的にタランチュラへ高品質な栄養を届けるシステムが確立されており、これが最も推奨される使用法です。
- 4. 栄養学的リスクへの懸念:
爬虫類用に強化されたカルシウム量が、クモ類の生理に長期的どう影響するかは未解明であり、この不確実性も直接給餌が一般化しない要因の一つです。

総じて、日本の飼育者が海外の事例を参考にするならば、**「グラブパイは直接与えるものではなく、餌昆虫の品質を極限まで高めるためのブースターとして導入するのが、現時点での世界的なベストプラクティスである」**と結論付けることができます。

付録：データ比較表

表1: 給餌方法によるメリット・デメリット比較

項目	生餌（コオロギ・デュビア）	Repashy Grub Pie（直接給餌）	Repashy Grub Pie（ガットローディング）
嗜好性・食いつき	◎（極めて高い） 動きと振動で本能を刺激。	△（低い） 動きがないため認識されにくい。	◎（極めて高い） 媒体が生餌であるため食いつきは変わらない。
栄養バランス	△（変動あり）	○（一定）	◎（最適）

	ストック状態に依存。	成分保証されているが、Ca過多の懸念。	昆虫本来の栄養＋グラブパイの栄養。
安全性(対タランチュラ)	△(リスクあり) 脱皮中の逆捕食のリスク。	◎(安全) 噛みつかれる心配がない。	△(リスクあり) 生餌を使用するため逆捕食リスクは残る。
管理の手間	×(大変) 餌昆虫の飼育・維持が必要。	◎(楽) 粉末保存・作成のみ。	×(大変) 餌昆虫の維持＋グラブパイの調理が必要。
コスト	中 継続的な購入が必要。	安 一瓶で長期間持つ。	高 生餌代＋グラブパイ代がかかる。

表2: ライフステージ別 グラブパイ受容性の傾向(海外フォーラム等の報告に基づく)

ステージ	受容性 (Acceptance)	理由・背景
幼体 (Slings)	中～高	自然界でのスカベンジング(死肉食)習性が残っているため、動かない餌でも匂いで認識して食べることが多い。
亜成体 (Juveniles)	低～中	狩猟本能が強くなり、動く獲物を好む傾向が強まる。個体差が大きい。
成体 (Adults)	低	完全に捕食者としての行動パターンが確立されており、動かない物体を無視、あるいは邪魔なゴミとして排除(巣の外に捨てる)する行動が見られる。

脱皮後・病気個体	特例的受容	エネルギーを節約したいため、目の前に置かれた栄養価の高い動かない餌を受け入れる場合がある。流動食（スラリー）としての利用価値が高い。
----------	-------	--

引用文献

1. Repashy Grub Pie Reptile Food - 6oz Insect Gutload Formula For Bearded Dragons & More, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://clinicadentalrociomontero.com/Pie-Reptile-Food-6oz-Insect-Gutload-Formula-For-Bearded-r-940236>
2. Repashy Grub Pie - Swell Reptiles, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.reptiles.swelluk.com/repashy-grub-pie>
3. What are the eating habits of tarantulas? - Quora, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.quora.com/What-are-the-eating-habits-of-tarantulas>
4. Do you know how tarantulas eat their prey? 🕷️ #NationalGeographic #Spiders - YouTube, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/shorts/8Se3toQlkqw>
5. Repashy Grub Pie Insectivore Premix Gel, 3 oz. - Petco, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.petco.com/shop/en/petcostore/product/pro-bugs-repashy-grub-pie-insectivore-premix-gel>
6. Of COURSE arachnoboards is down while my T is stuck! : r/tarantulas - Reddit, 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/tarantulas/comments/dlkh2x/of_course_arachnoboards_is_down_while_my_t_is/
7. Tarantula Feeding – What, when, and how much to feed | Tom's Big Spiders, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://tomsbigspiders.com/2015/02/02/tarantula-feeding-how-much-to-feed/>
8. Can Tarantulas Hear? Can Tarantulas Hear the World Around Them? | by Aexsha Teramera | Medium, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://medium.com/@Tarantulasdiet/can-tarantulas-hear-can-tarantulas-hear-the-world-around-them-6a67aa58eac3>
9. Ethical dilemma (feeding insects) : r/reptiles - Reddit, 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/reptiles/comments/1hvwfa5/ethical_dilemma_feeding_insects/
10. I bought some dubia roach chow off of amazon but they won't eat. : r ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/tarantulas/comments/1723sew/i_bought_some_dubia_roach_chow_off_of_amazon_but/
11. Care for Mexican Fire Leg Tarantulas – September 2013 | The Reptile Times, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://thereptiletimes.wordpress.com/2014/03/31/care-for-mexican-fire-leg-tarantulas-september-2013/>

12. Caring for slings - Kunena, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://tarantulas.co.za/kunena/beginners/48151-caring-for-slings>
13. My GORGEOUS TARANTULAS get SPECIAL JUICY TREATS!!! (Part 1) - YouTube, 1月 9, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=UCZlZUceHJI>
14. A very very JUICY TARANTULA FEEDING video !!! ~ Tarantula CANDY !!! - YouTube, 1月 9, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=agJvKT4pcxU>
15. THICC JUICY TREATS for my BIGGEST MEANEST TARANTULAS !!! Oh yesss!! - YouTube, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=qswUzDOBVLU>
16. Repashy Grub Pie vs. Chameleolis (Anolis) Barbatulus - YouTube, 1月 9, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=KAz1bl-ICPI>
17. Tarantula Feeding Guide: Tips & Diet Essentials - Reptile Super Show, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://reptilesupershow.com/tarantula-feeding-guide-tips-diet-essentials/>
18. Gut loading crickets with Pangea food : r/tarantulas - Reddit, 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/tarantulas/comments/8z6kne/gut_loading_crickets_with_pangea_food/
19. Repashy Grub Pie Reptile Food - 6oz Insect Gutload Formula For Bearded Dragons & More, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://konen.es/Pie-Reptile-Food-6oz-Insect-Gutload-Formula-For-Bearded/1058772>
20. Savannah Monitor Care - CHICAGO EXOTICS ANIMAL HOSPITAL, 1月 9, 2026にアクセス、<http://www.exoticpetvet.com/savannah-monitor-care.html>
21. Exotic Nutrition Berries & Bugs Small Pet Food, 1.5 lbs. - Petco, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.petco.com/shop/en/petcostore/product/exotic-nutrition-berries-and-bugs-small-pet-food>
22. Questions : r/VenusFlyTraps - Reddit, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.reddit.com/r/VenusFlyTraps/comments/1p78thr/questions/>
23. fish food - Carnivorous Plant Society of Canada - ProBoards, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://ocps.proboards.com/thread/2463/fish-food>